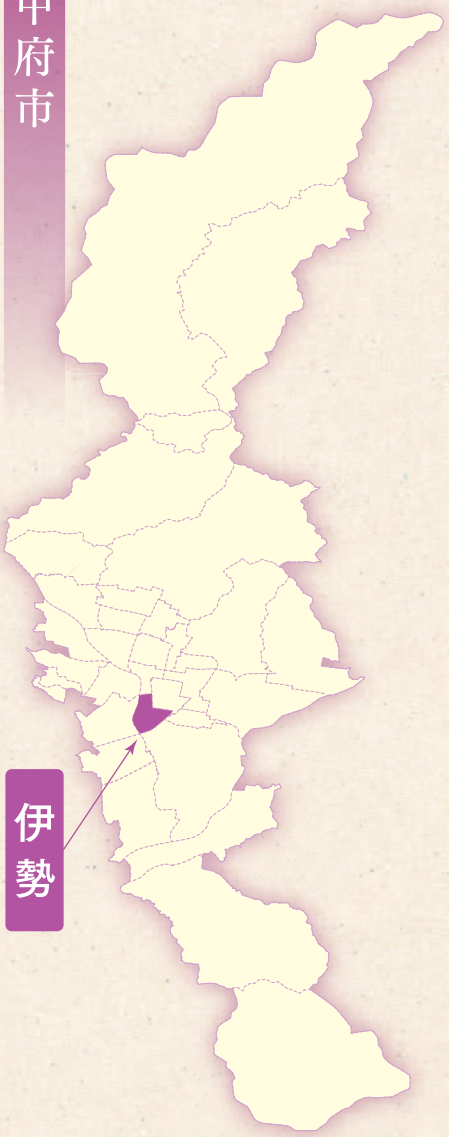
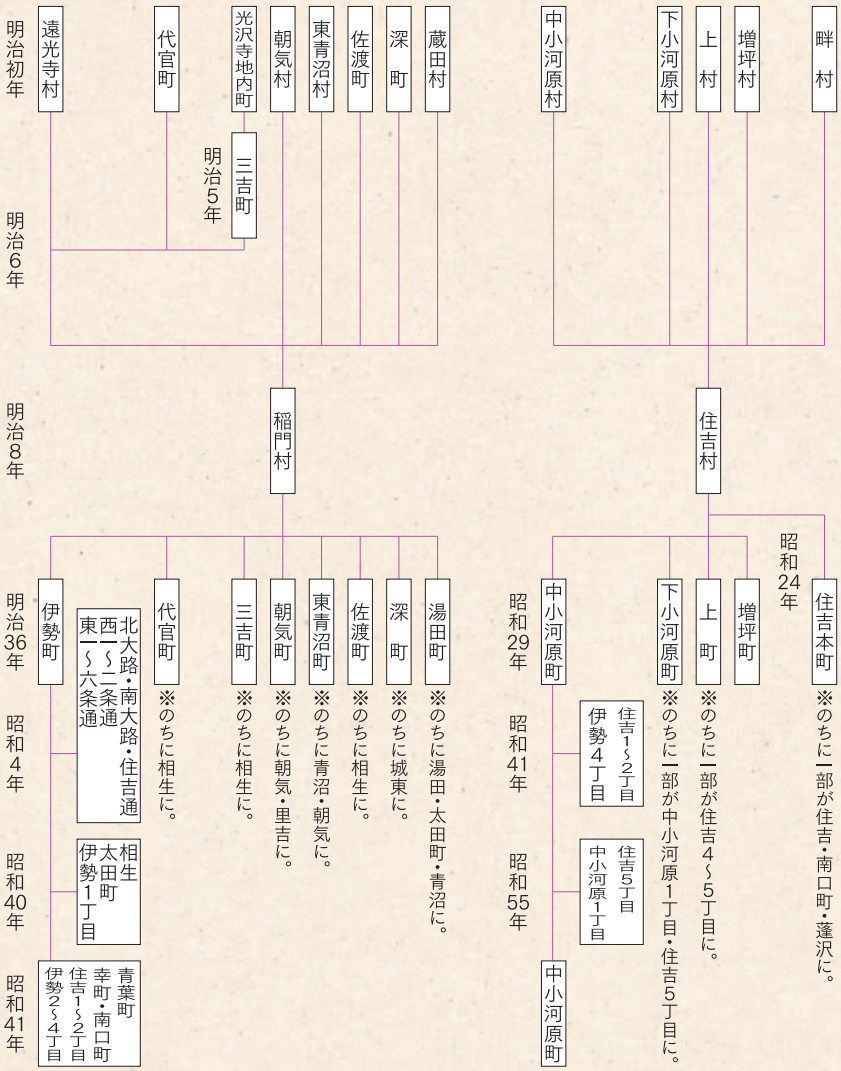
わが街の歴史
伊勢地区

伊勢地区自治会連合会



地名の変遷（明治以降）



公共施設

○伊勢小学校
○伊勢悠遊館
○甲府地区消防本部・南消防署

目　次

03：旧町名「伊勢町」の由来・昔の伊勢町
04：寺院・神社
06：伊勢地区にある史跡
08：甲府空襲
09：教育施設
10：伊勢地区変遷
15：新しい時代へ
16：歴史探訪ウォーキング
18：地区で行っている行事
19：現在の伊勢地区

会員世帯数：1,810

令和元年度 自治会長名簿より
令和元年6月現在

自治会名	世帯数
きたいせまち 北伊勢町	64
いせさいぶむつみ 伊勢西部睦	68
いせさいぶだいいっく 伊勢西部第一区	71
いせさいぶだいにく 伊勢西部第二区	36
いせさいぶだいさんく 伊勢西部第三区	86
いせさいぶだいごく 伊勢西部第五区	13
いせちゅうぶ 伊勢中部	98
いせなんいちだいいっく 伊勢南一第一区	102
いせなんいちだいにく 伊勢南一第二区	103
いせなんいちだいさんく 伊勢南一第三区	90
こうなんしんわ 甲南親和	34
ゆうあいかい 友愛会	191

自治会名	世帯数
いせなんにだいいち 伊勢南二第一	80
いせなんにちゅうおう 伊勢南二中央	80
いせなんになんぶ 伊勢南二南部	127
いせなんにせんたー 伊勢南二センター	108
きまたしんりん 木俣親隣	55
きまたにしきまた 木俣西木俣	11
きまたみなみこうせ 木俣南光勢	12
きまたきょうえい 木俣共栄	16
きまたしんえい 木俣進栄	37
きまたしんでん 木俣新田	47
きまたしんせ 木俣新勢	38
きまたなんせ 木俣南勢	47

自治会名	世帯数
きまたさつき 木俣五月	14
きまたしんせい 木俣新生	7
すみよしにちょうめせいぶ 住吉二丁目西部	69
すみよしにちょうめちゅうぶ 住吉二丁目中部	44
すみよしにちょうめとうぶ 住吉二丁目東部	62

☆旧町名「伊勢町」の由来☆

私たちが今住んでいる伊勢の町は、昔は遠光寺村であった。

天文年間（1532～55）遠光寺が蓬沢から現在地へ移転した頃が伊勢町の黎明期である。

遠光寺村の名前は江戸時代を通じて明治時代に及んでいる。

明治７（1874）年、村々の合併を促す布達が出されて、翌８（1875）年１月に深町、佐渡町の２町と遠光寺、朝気、東青沼、蔵田の４村が合併して稲門村となった。

そして同 22（1889）年に甲府市に編入されて、甲府市稲門村となった。

伊勢町はもともと、甲府城築城で新しい城下町が作られた時に現在の中央２・３丁目辺りにできた町で、伊勢神宮の御師・幸福太夫の屋敷があったことから名づけられたものである。

のちに当時、伊勢守だった柳沢吉里が甲府城主になった時、その名をさけて、山田町に変更された。

その後、明治 36（1903）年になって各集落に町名が附され、名前の響きがよいことから遠光寺村域に「伊勢町」の町名が附されたという説や、住吉神社境内の西北部の一部を特にお伊勢の森といって「お伊勢様」と呼んだお宮があったことと、当町の一部が昔、河原であって「お伊勢河原」といったことによるという説もある。近在にも、八代町北（笛吹市）の熊野神社東側に伊勢塚古墳があり、大塚（市川三郷町）にも伊勢塚古墳があって、墳上に伊勢大神の石祠がある。また右左口（うばぐち）町の、精進湖線と旧道との分岐する脇に、右左口峠開削記念の石碑が建っているところのすぐ上に、「霊水のこんこんと湧くお伊勢宮」の碑とともに、石組みで囲まれた湧水地であったところがある。このように、近在の地に「お伊勢様」のゆかりが今も残っていることから、当伊勢町にも相応の因みがあって、伊勢町の地名が附されることになったとも考えられる。

☆昔の伊勢町☆

武田氏が天正 10（1582）年３月織田信長に滅ぼされて間もなく６月に本能寺の変があって、甲斐は徳川家康に略取された。伊奈備前守忠次が家康の命によって国中を縄張検地したが、其の時この町の辺も測量された。而し荒蕪の地であったので、５代将軍綱吉の頃迄御年貢の大部分は免除された。

…甲府の人の食膳に上る、肴や塩は慶長 10（1605）年富士川に船が通ずる迄は専ら駿河方面から右左口を経て、住吉村から遠光寺村を通って甲府に入った。

…住吉神社は奈良時代から高畑に在ったが、頼朝の頃武田信義が今の舞鶴城のある所に還し祀り、天正 19（1591）年秀吉の臣加藤光泰が甲斐に封ぜられ甲府城新築の時現地に奉遷したのである。…明治８（1875）年に遠光寺村が稲門村になり、同時に稲門学校が開かれ、22（1889）年に甲府市に編入されて、甲府市稲門村と改め、36（1903）年に伊勢町になった（伊勢小学校文集「真竹」第五号より。旧字体は新字体に改めた。一部加筆修正）。

☆寺院・神社☆

遠光寺（伊勢２丁目２－３）

宝塔山遠光寺は日蓮宗の寺。

甲斐源氏新羅三郎義光の曾孫で武田氏の始祖信義の弟加賀美遠光が建暦年間（1211～13）菩提寺として建立し、臨済宗建仁寺（京都）の宗明阿闍梨を屈請して開山。その後日蓮宗に改宗。

寺は、はじめ感応山と号し小曲村（小曲町）に建てられたが、水害等により蓬沢村（蓬沢町）に移り、さらに天文年間（1532～55）に現在地に移築された。

寺には、日蓮上人の直筆といわれる「七重宝塔大曼荼羅」、遠光の墓所、石碑「河東之惣導師」などがあり、寺格の高い寺である。

現在の本堂は昭和 43（1968）年内藤多仲博士に設計を依頼し法隆寺（奈良）の夢殿を模して造られたものである。

旧櫛形町出身の博士は東京タワーや通天閣（大阪）、札幌・名古屋のテレビ塔をはじめ甲府市役所の４代目庁舎も手がけている。

遠光寺　二天尊大祭

「二天門様」は元禄 16（1703）年（義士討入りの翌年、大石良雄切腹の年）に建てられ、京都の大仏師康継という人が二天尊を作ったそうである。大祭は、毎年８月８日に行われる。

日蓮宗新聞 2015 年８月８日号によると「二天尊大祭は遠光寺の伝統行事で、持国天と毘沙門天を祭るものであり、昔は『二天門さん』とも呼ばれていた。その由来は、戦中の火災を免れた同寺の門にあると言われている。しかし加賀美住職によれば、70 数年ぶりに祭りを訪れたと語る方もいるとのことで、その来歴はさらに古くまでさかのぼる可能性があるという…この祭りは当初、遠光寺の講中である『八日講』の行事として行われていたが講中と共に一時期中断していた。それを同寺の周辺地域住民の協力を得て再興し、現在でも伊勢地区自治会・西部・中部・南一自治会の協力は続いている」。

また、当日は本尊の十界曼荼羅も開帳される。

千松院（相生３丁目８－９）

曹洞宗の寺。

創建は天正年間（1573－1591）。荒川を背にする地域に、武田家が荒川水難よけのため鎮座したものと伝えられている。1868（慶応４）年、寺社役所への書き上げ

によると、本堂、開山堂のほかに「鎮守住吉明神社、六尺、九尺（建物の大きさ）」があったと記録され、このホコラは関東大震災(1923＝大正12年)で破壊された。山号は住吉山。住吉神ははらい清める神であるとともに、水に対する安全を守る神として神仏一緒に信仰された時代、甲府南西の鎮護として置かれた寺である。1945（昭和 20）年の空襲によって本堂、観音堂ほか境内の堂宇はみな焼失、1970（昭和 45）年、鉄筋の本堂を再建した。本尊は釈迦如来。観音堂に納めた聖観音像は府内（甲府）観音霊場 34 番札所の第１番として「補陀洛や法のおしえや住吉の千代よろず代と松風のおと」のご詠歌が残され、1695（元禄８）年の記録がある（『山梨百科事典』）。

住吉神社（住吉１丁目 13－10）

表筒男命（うわつつのおのみこと）、中筒男命（なかつつのおのみこと）、底筒男命（そこつつのおのみこと）の三神を祭神とし、元来、海の神であり、水上交通の安全を祈る神である。山梨には甲府盆地が湖沼であったという伝説から数社が祭られている。聖武天皇の天平年間（729～49）にはその岸辺であったとされる高畑に鎮座していたが、武田信義により、一条小山（現在の舞鶴城公園）に遷祀され、さらに甲府城築城に際して、一条小山にあった一蓮寺、稲積神社と共に文禄年間（1592～96）畔村の地（現在地）に遷祀した。今の社殿は寛文８（1668）年の造営である。旧社地の高畑には住吉神社が今もある。

福岡市にある本宮に、神功皇后が三韓出兵に際して祈り、戦勝を得たことから神功皇后（息長帯姫命（おきながたらしひめのみこと））をも祭神とされている。

当神社が魚町街道と中道往還の合流地点にあることは偶然ではなく、水上交通の安全を祈る神が、道中の守り神と考えられても不思議ではない。

本殿の軒に掲げられた神紋は、水神の性格を表すように波が描かれている。

我々の世代では「住吉さん」と言っていたが、今の子供たちからは「住神（すみじん）」と呼ばれ親しまれている。

※お田植え祭り

神社の祭事の一つ、夏季例大祭の田植えは有名である。毎年７月 16 日に御田植神事が境内にある斎田で行われる。

その年の当番町内の早乙女約 20 名が、菅の花笠、揃いの浴衣、緋の襷に手甲脚絆で田植え歌に合わせて早苗を植える。

お米を大切にし、自然に感謝して行われる神事である。

☆伊勢地区にある史跡☆

石尊大権現（伊勢１丁目６番地内）

天保４（1833）年癸巳年（みずのとみのとし）建立。

「大山石尊大権現」の碑は、元は荒川の現在遊歩道がある位置にあった。その場所には「元の石尊さん」といって大きな樅の木が残っていたが、昭和 10（1935）年９月 25 日の大出水で流失した。

本宮は神奈川県伊勢原市大山の頂に大山阿夫利神社の上社があり、その隣の巨石が石尊権現の本尊といわれ、大小様々な天狗の面が祀られている。

現在ある石尊大権現の碑は、天保３（1832）年より続いた凶作、災害に荒川の治水を願い建立されたものと思われる。石碑裏には天保４年と刻まれていて、以前あった千松院内の石尊大権現の分身として荒川の水の守り神として祀られ、今日まで親しまれている（平成９年８月、野尻嘉六氏筆）。

水神社

石尊大権現の隣にある「水神社」の碑は、御膳水の碑ともいわれている。

かつて千秋橋の上流、東側に井戸があり、その井戸水は明治 13（1880）年の明治天皇巡幸の際、御膳に供する水（御膳水）に選ばれた。

以後「御膳水」と呼ぶようになった。その頃甲府にはまだ上水道の敷設がなく市中の水は飲料水に適さず各地の水を求めた結果、この水に白羽が当たった。「御膳水」を汲んだ井戸は河川工事で川幅が広がり、古井戸は川底に沈み、当然ながら今はない（『市史編さんだより』第３号植松氏著「甲府御膳水」より）。

※水屋・水売り

大正２（1913）年に上水道が完成するまで、「水屋」と言われた水売り業者がおり、最盛期には 20 軒を超す「水屋」が早朝から一日中忙しく立ち働き繁盛を極めた。「御膳水」は桶一杯の代価が町々の遠近によって違い、伊勢町・湯田・三吉町・太田町は五厘、愛宕町九厘から一銭、和田平町一銭一厘だったと記録されている（『市史編さんだより』第３号植松氏著「甲府御膳水」より）。

※石尊神社例大祭

娯楽がない時分は祭りが盛大に行われて、土手面に演舞場が設置され剣劇が行われたり、石尊神社大権現から平和通りまでの道の両側に沢山の屋台が出ていた。

神輿は伊勢西部睦自治会備品倉庫に保管されていて、祭典時に組立展示し、祭典に華を添えている。

毎年８月お盆過ぎに開催。伊勢西部睦自治会主催、伊勢西部の第１区～第５区各自治会協賛。

道祖神（伊勢２丁目 12 番地内）

伊勢小学校北東に位置するところに鎮座する道祖神は高さ１ｍくらいの台座の上に小さな祠と丸石が並んで祀られている。その昔、河内家の宅地内で道路に面したところにあって、木造の立派な道祖神であった。大正時代に大雨のため荒川の増水により、三ツ水門が決壊して大水になり、道祖神の社が流され手分けして探したが見つけることが出来なかったそうである。また、大きな太鼓があって河内家で預かっていて子供がいたずらで太鼓を叩くと親から叱られた。

石の台座は残ったので現在の場所に移して、石を組直して築き、社も石の道祖神として現在に至っている。

今は毎年１月 14 日に地元８組・９組合同でお祭りを行い幟を４本立ててお参りを行っている（平成 30 年 10 月、河内弘・繁蔵氏「道祖神の由来」）。

般舟院（伊勢３丁目８・９番地付近）

南消防署の東側に昔、般舟院という寺があった。もと一蓮寺塔頭の一つとして一条小山にあった。一蓮寺移転の際に独立して移転したらしい。江戸末期までは寺として存続していたが、度重なる水害で廃絶し、寺域も埋没した。昭和 56（1981）年、当寺域内とされる伊勢３丁目の下水道工事の時に数百個の墓石（敷石として使用されていた）・土器・古銭などが出土して、そこに寺があったことがわかった。出土品の多くは南北朝・室町期のもので、これらはもと一蓮寺にあったが移転の際に般舟院内へ移されたものと推察されており、復元された墓石は現在、一蓮寺境内に戻されている。市指定文化財。

（『山梨県の地名』）

馬頭観音（伊勢３丁目２番地内）

伊勢通りから伊勢小学校東門に向かう途中左側に馬頭観音と庚申塔がある。近所の人の話では昔は、ここから南側にあった農道沿いにあったそうである。

伊勢町遺跡（幸・太田町境付近）

現在の青葉通りの一部。昭和 34(1959)年、下水道工事の際、発見された。当時は、伊勢町と湯田町の境だったことから「伊勢町遺跡」と呼ばれる。主に、弥生時代から古墳時代にかけての遺跡で、土器のほか、鏡や勾玉等が出土。住居跡ではなく、祭祀遺構の可能性が高いとみられる。

☆甲 府 空 襲☆

『甲府空襲の記録』より体験記の一部を掲載する。

伊勢１丁目　駒井寿雄

昭和 20 年７月６日夜 11 時過ぎ、突然空襲警報が鳴りわたり、ついに B29 の編隊は甲府市街の上におおいかぶさり、ところきらわず焼夷弾を投下しはじめた。

百雷のとどろきかと思ふような爆音がいよいよ頭上に迫り、方々から燃え広がる火の勢いに、全市街は火の海となった。B29 の重苦しい爆音がさっと遠のき、燃えさかる火の音だけとなったのは明方近かった。

その夜の空襲を逃れていた人達も帰って来て、灰燼と化したわが家、わが街にぼう然自失の有様であった。見渡せば、焼土と化した中に焼けた松菱デパートのみがさえぎるものなく望めた。

伊勢４丁目　植杉大次郎

当時私は、44 才、一年前に東青沼町から伊勢町春風寮の南隣の畑地を買い、住宅を建て農業をしていた。その頃、学校地区毎に国民義勇隊が結成され、副隊長をさせられた。警防団の集会場所は伊勢小学校（当時国民学校）、戦災直前に小学校西北隣の角地に、団専用防空壕を作って万一のときの集会所とされていた。

当夜警戒警報発令によりただちに出動した。伊勢小学校には武田与十郎団長一人いられたのみで、誰もいなかった。

市の東部から南部へ油脂焼夷弾を投下した。町内も東部から南部にわたり火の海と化した。武田醤油工場も燃えている。伊勢駐在所も焼失し、遠光寺の本堂に焼夷弾が落された。火勢は強くたちまち大伽藍も焼失。風が東向きのため西側の住宅は類焼を免れた。千秋橋付近の住宅一部と伊勢学校と春風寮が残っただけで、ほとんど全滅であった。

目黒区立月光原国民学校　遠峰英雄

不気味な警報が鳴り出すと同時に「起きろ、待避」の寮母さんのきびしい声にとび出し、遠光寺の広場の防空壕にとびこんだ。危険になって、荒川の土手の方へにげた。ところが、川のそばのどぶの中に落ちて足をすりむいた。田舎のおじさんが「先へ行かないとあぶない。お前はどこだ」、「疎開の月光原だ」。

荒川の土手は避難した人で一ぱいだった。明方になって小雨が降り出し、それがからだにしみてうなっていた。すると兵隊さんが側へきて「君は誰だ」「疎開の学童です」「それじゃ皆伊勢の学校へ行っている」。二人の兵隊さんは学校へたんかで運んでくれた。三十六連隊の兵隊さんだった。

☆教 育 施 設☆

稲門学校

伊勢町は稲門といって居りました。

そしてこの村を治める方は戸長さんと言って、ずっと昔から町内の駒井さん、河内さん、武田さん等の御先祖でありました。

明治５年に学制が頒布されて、初めて小学校が建てられたのですが、稲門村では明治６年４月にいち早く学校を創設いたしました。明治 11 年７月５日に大石酒造店の酒倉の北隣りに立派な校舎を建設いたしました。明治 37 年湯田町に移されるまで南甲府唯一の学舎として、南甲府の人達はこの稲門学校にはぐくまれてきたのであります（伊勢小学校文集「真竹」第五号より。旧字体は新字体に改めた）。

市立伊勢小学校（伊勢２丁目 16－1）

令和元年、創立 95 年を誇る歴史ある学校である。

戦後の昭和 30 年代はベビーブームで全校生徒約 1,500 名だったが、平成 31 年４月現在 257 名である。

・大正 13（1924）年４月１日
　一部開放
・同年４月５日
　伊勢尋常高等小学校と改称
・昭和 16（1941）年４月１日
　甲府市伊勢国民学校と改称
・同 22（1947）年４月１日
　市立伊勢小学校となる

山梨立正光生園（伊勢２丁目１－19）

昭和 15（1940）年遠光寺住職加賀美日聡氏が乳・幼児保育所として山梨立正保育所創設。同 18（1943）年山梨立正光生園と改称、助産・授産・乳幼児保育などを行う。

その後母子寮・保育・養護等の事業を行っている。

川口学園　博愛幼稚園
（住吉１丁目６－22）

昭和 29（1954）年川口音三郎氏創設の創立 65 年を誇る歴史ある幼稚園である。平成 30 年現在 6,793 人が卒園している。「人々を広く愛するように」というところから博愛と名づけられた。

☆伊　勢　地　区　変　遷☆

江戸時代後期は、現在の太田町からジョナサンの南通りを経て石尊神社（大権現）の前を通る荒川までの通りが本街道だった。千秋橋への通りは以前は新道と言っていた。荒川に橋はなく、荒川を渡るには、船頭が船で客を渡していた。千秋橋ができる以前は、石尊神社と対岸の住吉神社（高畑１丁目）の辺りを結ぶ「高畑の渡し」があった。

明治 36（1903）年稲門村が伊勢町や三吉町、湯田町等になり、伊勢町の南端に同 40（1907）年に県立農事試験場が百石町から新築移転。大正６（1917）年に県立農林学校（現在の県立農林高校）が竜王村から新築移転。中道往還（伊勢通り）を隔てて試験場と学校が相対した。その北東に同９（1920）年百石町から測候所（現在の甲府地方気象台）が移転。同 13（1924）年に伊勢小学校が誕生するなど、大正時代に入って急激に発展しはじめた。第２次世界大戦前、伊勢町内には製糸工場が多く、市内 71 工場のうち 17 工場があった。

日新館製糸（伊勢２丁目１番地）

矢島製糸、風間製糸と並ぶ山梨県を代表する三大輸出製糸会社。後の合資会社窪田製糸。敷地面積 3,000 坪、301 釜、従業員数 350 名、県下１～２位の高い煙突と大きなボイラーがあった。

明治９（1876）年５月八日町 66 番地に大木善右衛門が設立。

同 43（1910）年ごろ工場を伊勢町 2697 番地に建設（遠光寺隣、現在の保育所）。日新館女子職業学校を併設。

大正 12（1923）年９月認可を得て自工場で働く工女を対象に本格的な職業学校を開設、当時の製糸工場には女工用教育施設はなかったが日新館製糸は自工場で働く工女を対象とした教育施設を既に持っていて他の企業に先駆けて許可を受け学校の開設に至った。

昭和６（1931）年伊勢町工場を合資会社窪田製糸に商号を変更する。

同 18（1943）年企業整備令により製糸業を廃止。県知事の要請により軍需工場になり陸軍･海軍に納入した。同 20（1945）年空襲により焼失した。

山十・武田與十郎

現在の（株）テンヨ武田の前身。

明治５年、武田伝右衛門が、現在本社所在地の遠光寺村、後の伊勢町で味噌・醤油醸造業を創業。

大正３年、酒類・麦酒・食料品の卸売業を兼業、同６年には東間商店より「マルト」の商号を譲り受け、缶詰の製造を開始した。

昭和９年、法人組織化、株式会社武田本店とし、翌年、武田醤油株式会社に変更。

同 20 年の甲府空襲により工場設備を全焼。戦後の同 39 年には、現在の主力商品「テンヨのだしつゆビミサン」を発売。

平成６年、株式会社テンヨ武田とした（『甲府街史』）。

鉄橋堀

今の平和通りが身延線の下をくぐっているところに堀があった。通称「鉄橋堀」。堀の周りには葦が生い茂り子供たちにはちょっとしたワンダーランドであった。近所に住む大人たちにとっては娯楽のない時代よき娯楽場でもあった。「ナマズ」

や「ライギョ」「フナ」に「コイ」などが釣れたようである。

また、夜になるとウオンウオンと食用ガエルの鳴き声がはるか遠くまで夜な夜な不気味に鳴り響いたようである。

今では怒られるが、当時の子供たちにとって、この鉄橋を歩いて渡ることが一つの肝試しであった。

春風寮

現在の伊勢悠遊館と甲府地区消防本部（南消防署）の一部にまたがる場所にあった。

昭和 13（1938）年、現在の民生委員の前身である方面委員達により造られ、同 32（1957）年７月には昭和天皇・皇后両陛下も御巡幸になられた歴史の古い施設である。同 60（1985）年に伊勢町から現在地（桜井町）に移転した。

３軒の映画館

伊勢劇場・南嶺劇場・甲南劇場が戦後の娯楽の場として大いに賑わった。

・伊勢劇場（伊勢１丁目 10 番地内）

リカーショップ大石の北側。明治 37（1904）年湯田町に稲門学校が移り、その跡地が伊勢劇場となった。

・南嶺劇場（幸町９番地内）

竹屋あさかわの数軒南側にあった。

・甲南劇場（幸町 16－23）

伊勢地区に唯一現存する映画館。

銭　　湯

戦前・戦後はまだまだ各家庭に風呂がなかった。伊勢地区内にも５～６軒の銭湯があったようである。

・南温泉（住吉１丁目８番地内）

昭和 21（1946）年頃に開業された。当時の入湯料がふろかけ（風呂とかけそば）10 円といわれていたそうである。平成 25（2013）年に廃業。

・亀温泉（住吉１丁目 13 番地内）

山梨交通伊勢町営業所北側車庫の隣にあった。

・塩湯温泉（幸町９番地内）

(株)テンヨ武田の工場の北側にあった。

・昭和温泉（伊勢１丁目 10 番地内）

伊勢通りと遊亀通りの遠光寺東交差点の北側、「小林ラジオ商会」の脇を入ったところにあったが、現在は駐車場になっている。

・たつみ温泉（伊勢３丁目１番地内）

オギノ伊勢店と伊勢通りをはさんで反対側にあった。現在は駐車場となっている。

農林学校

現在、伊勢団地がある場所は、県立農林学校（現在の県立農林高校）の跡地。団地

内にはその石碑がある。その碑によると、大正６（1917）年から昭和 21（1946）年まで校舎があった。

甲府測候所

現：幸町地内

明治 27 年８月、甲府市大字西青沼に県の機関として、山梨県立甲府測候所が創立され、昭和 13 年に国営に移管となり、昭和 20 年甲府空襲により庁舎・付属舎が全焼した。昭和 26 年に甲府市飯田町に新庁舎完成移転（甲府地方気象台ホームページ）。

県農事試験場

現：伊勢４丁目６番地内

現在の県総合農業技術センター（甲斐市）。

明治 33（1900）年、創設。同 40（1907）年、事務所や圃場を統合して伊勢町に移転。昭和８（1933）年、試験場は貢川村に移転。

県立種畜場

現：住吉２丁目

（県の合同庁舎や合同宿舎跡地）

現在の県畜産酪農技術センター（中央市）。

昭和 11（1936）年、下河原町に創設。数年後、住吉村に住吉分場を設立し、豚や鶏の改良事業を行う。同 26（1951）年に住吉分場は独立、住吉種畜場と改称。同 37（1962）年、一宮町（笛吹市）に移転。

当時、豚や鶏が多数飼育されていた。ひよこは雌雄に選別され、近所の子供たちは捨てられていたオスを自宅に持ち帰り育てていたという。

木俣住宅

昭和 25（1950）年頃の木俣住宅（伊勢４丁目）の周りはすべて桑畑で荒川の土手まで見えていた。Ｆさんの家の前の小さな川は奇麗な水が流れており、みんな赤ん坊を抱えていたのでその川で毎日おむつを洗濯したものである。その川には夏になるとたくさんのホタルが乱舞していた。

すべての家がほぼ同じ造りで赤い瓦屋根で、朝と夕方はどの家でもかまどと七輪で火をおこし住宅中が煙っていた。どの家も庭には花を植えるのではなく食糧不足を補うために野菜を作っていた。今と違い住宅中を小さな子供が大勢走り回っていた。

家の南側のガラス戸の外側に雨戸があり、夜、閉めて、明け方の陽が昇ると節穴から外の景色がガラス戸に逆さに写って幼い子供たちは喜んでいた。どの家もまだそれ程余裕のある生活ではなかったので、味噌・醤油・米などを貸し借りしていた（林幸子氏）。

中道往還・伊勢通り

甲府精進湖線と伊勢三差路交差点から北側の伊勢通りは、かつての中道往還。

往還が通り、旧中道町方面からの買い物客で伊勢のまちは古くから賑わっていた。

近隣の人の話では昭和30年代初頭までは未舗装であったそうである。

※中道往還（旧柳町～旧畔村）…旧柳町４丁目が事実上の出発点となる。濁川に架かる緑橋を渡ると若松町通り・旧緑町１丁目・２丁目（元禄３年の絵図では河尻町とある）、東方に信立寺が終る辺り、現在の若松町と太田町の交差点で旧一蓮寺境内に突き当たり、往還は右折する。そして相生３丁目までは、光沢寺門前の旧寺内町を西進する。光沢寺の山門前で左折して相生３丁目、旧相生町通りを南下、東方に甲府郵便局裏手、西方に仏国寺・千松院の門前を通る。仏国寺から南は旧西山梨郡遠光寺村に入る。現在の伊勢１丁目遠光寺の門前をまっすぐに南下する道は、現在の県道甲府中央右左口線（伊勢通り）。住吉１丁目で甲府精進湖線に入ると、旧西山梨郡畔村。山梨交通伊勢町営業所、住吉神社の前を通って、身延線の踏切を渡ると住吉５丁目に入る（『山梨県歴史の道調査報告書第三集中道往還』一部加筆修正）。

貸本屋さん・駄菓子屋さん

昭和30年代に伊勢劇場マーケット内と現在の住吉１丁目８番地内に「伊勢文庫」という貸本屋さんがあった。現代で言う「レンタルショップ」であろうか。当時の子供たちが５円・10円の小遣いを手に貸本屋や駄菓子屋によく行ったものである。

わが町　伊勢

昭和20年代、境川・右左口線の一本筋本通りは伊勢町のメインストリートで商工業者が軒を連ね、遠光寺から千秋橋にかけての市川大門線には車鍛冶屋などの業者が多かった。この町は神社・仏閣も多くとりわけ住吉神社は町民の守り神となっている。

春・秋の大祭にはかなりの賑わいであり、武田神社からみこしの渡御と、二十四将の騎馬行列が北から南に威風堂々と戦国の世を再現してくれる。みこしも昔は地元の若者が練り歩いたが、最近は交通事情の悪化で車に乗せたものと変わっているから、昔の面影はない（太田町　原田正八郎氏）。

～『甲州あのころこのころ』より～

昭和34年発売の本より伊勢地区にまつわる記述を一部抜粋する。

〇町内を田用水が数本流れている。そのころは水も清く、すべての洗い物ができた。米もといでいた位だった。

「縄のれんばたりばたりと冬の風」たれやらの川柳そのままの飲み屋の縄のれんが砂ほこりの木枯しに音たてて、腰高障子にあたるわびしい風景がぴったりの千秋橋通りもいまはバスやトラックが間断なく走る騒音の街だ。

〇ハイヤーもバスもなかったころ、鉄道馬車とならんで人々になじまれたガタ馬車があった。いまの千秋橋通りのなかほどの南側の鶏卵店の所にガタ馬車の立場があり、ぎょ者が豆腐屋と同じラッパを吹きながら、鉄輪の四輪をはねあがらせて、西へ東へと走っていた。

〇千秋橋も木の橋で、大雨が降り続くと、すぐ通行止となり土手は水防の在郷軍人、青年団で夜を徹して警戒、それでも手に負えないと、四十九連隊から兵士が出動して、濁流に崩れる土手を防いだものだ。

〇千秋橋通りで跡かたもなくなったものに、馬方茶屋がある。千秋橋際に自動車もないむかしから、貨物の運送に重要な役割りをした荷馬車の休み場があった。三度笠に回し合羽の旅人が出てきそうな家構えに、裏手には馬小屋もそなえ、峡南方面を往来する馬方と荷馬車がいつもたむろしていて、馬の臭いがむんと鼻をついていた。

青果物が統制になる直前までの長い年月で続いていたのが八百屋の買い出しで、千秋橋を中心に、高畑と伊勢町の道路に八百屋が早朝から待機して、中巨摩方面から来る生産者の荷を呼び止め、路上で取引きをする。毎朝 11 時ごろまでは多数の八百屋と生産者の車とで、通行妨害で警官にしっ責されるのは毎朝の行事であった。

この付近の飲食店はよそとは違い、早朝から盛っていた。

〇伊勢劇場の北を西に入る横丁がある。この狭い道路が荒川堤におよんでいる。この横丁を西へ 200 メートルくらい行ったところに眼科医院がある。院長の先代までは牧場を経営していた。

医院の少々南寄りの牛乳店も牧場で、広い牧場に乳牛の群が四季の太陽とともにのんびり過していたのは昭和初期ごろまでのことである。牧場の東側は県有の竹林が南北に 1 丁余も続き、牧場と竹ヤブの間の小道は夜の一人歩きは男でも薄気味が悪かった。竹ヤブも十数年前切りひらかれ、その跡は広い道路と住宅、倉庫、工場が建ち並んでいる。

〇名寺遠光寺と町の本通である身延街道と駿河街道、馬ふんで点々と軌道を飾った鉄道馬車。それが 40 年前の伊勢町である。

そのころ塩湯の二階の広間では毎月のように素人義太夫のおさらいが催された。いまは立派な市街地である南甲府も一面の田んぼで塩湯の窓からは一望裏にはるか蓬沢の部落が稲田の上に浮んでいた。

☆新しい時代へ☆

新平和通り･新々平和通り（国道 358 号）

新平和通りは相生交差点から遠光寺北交差点までの片側二車線の甲府市を南北に走る幹線道路である。

新々平和通りは遠光寺北交差点から笛南中北の交差点までの片側二車線の道路である。甲府駅前から甲府バイパスの区間は通称平和通り、新平和通り、新々平和通りと呼ばれている。

中央道甲府南インターにつながる重要な道路である。現在沿線には遠光寺や甲府地区消防本部、伊勢小学校等いくつかの教育施設やコンビニエンスストア・飲食店などが立ち並んでいる。

これからも、平和通りは地元住民はもとより、県都甲府市にとっても未来へと続く重要な道であり続けるであろう。

平成は終わり、2020 年には東京オリンピック･パラリンピックが開催され、日本の大きな変革期である。そんな中、山梨県も中部横断自動車道がもうすぐ静岡まで開通、2027 年には名古屋までリニア中央新幹線も走る、そんな明るい未来がすぐそこまで来ている。

地区内では城東三丁目敷島線（伊勢工区）も計画されていて、伊勢地区もこれから益々発展していくであろう。

こうふ開府 500 年　私の地域・歴史探訪事業

歴史探訪ウォーキング

平成 30 年 10 月 13 日（土）伊勢地区歴史探訪ウォーキングを開催した。
当日は朝９時に伊勢小学校校庭に 70 余名の住民が集まり、
樋口甲府市長挨拶の後、今回は以下のコースを探訪した。

伊勢道祖神　～　宝塔山遠光寺　～　住吉山千松院　～　大山石尊大権現

☆地区で行っている行事☆

町民大運動会

毎年５月の第３日曜日に開催し、600 名ほどが参加。令和元年の大会で 63 回を数える伝統行事で、地区最大の行事である。玉入れや宝拾いにパン食い競争など皆が楽しみにしている。

伊勢・住吉地区文化祭

毎年５月、伊勢小学校体育館で開催。民謡・舞踊・詩吟などの発表部門や書道・俳句・写真などの展示部門、また囲碁など多彩に行っている。

町民夏祭り大会

毎年８月 15 日の夜、伊勢小学校校庭で開催。子供からおじいちゃん・おばあちゃんまで幅広い年代の方々が参加し、盆踊りやフラダンス、また、おでんやポップコーンにスーパーボールすくい、抽選会なども行う。

防災訓練

毎年８月に 300 名ほどが参加して伊勢小学校校庭で開催。日本各地で災害が発生していることから年々関心が高まっている。幸い伊勢地区では災害が発生していないが、明日は我が身である。

三世代ふれあい祭り

毎年 11 月、伊勢小学校校庭で開催する３世代を対象としたイベントであり、400 名ほどの参加がある。当日は地区各種団体も工作教室や自転車教室・紙飛行機飛ばし・折り紙教室・食べ物コーナー等を開催する。

伊勢・住吉子どもクラブスケート教室

毎年２月、小瀬スポーツ公園アイスアリーナで開催。現在、子供の減少に伴い住吉地区と合同開催。昨今のスケート人気もあり年々参加者は増加している。平成 31 年２月には 90 余名の参加があった。

現在の伊勢地区

伊勢小学校正門

甲府地区消防本部

千秋橋東詰

伊勢通り

伊勢三差路

三吉通り

NEXT100

～ 100年後に伝えたい 地区の風景 ～

伊勢小学校 東門（旧正門）

わが街の歴史 伊勢地区

発　行　日：令和元（2019）年９月30日

編集・発行：伊勢地区自治会連合会